

【めむろ未来ミーティング】

令和3年1月16日(土)

19:00~20:30

めむろード2階 セミナーホール

- 参加者 6人
- 芽室町 町長、副町長、教育長
- 記録 玉堀、今森

■対応等必要事項

特になし

- 1 開会
- 2 町長あいさつ
- 3 町からの説明事項
 - (1) 公共施設の配置構想
 - (2) 機構改革による課・係の再編
 - (3) 公立芽室病院の運営体制
 - (4) 新嵐山活用計画の進捗よく
- 4 意見交換

【ご意見】

新嵐山について、今年から運営が変わったようで、いろいろとやっているのはわかるが、個人的な意見としては、もう少しスキー場に力を入れてほしい。毎日、スキー場に行くが、お客様に来てもらう前段階でのアピールが足りないのではと思う。

「今日はスキー場オープンしていますか？」というような問い合わせがあるようでは、情報発信が不足しており、遅いと思う。せっかくいろいろな取り組みをして変えていくのであれば、情報発信がもっと必要で、メディアをもっと使うなど、取り組んでほしい。

【手島町長】

新嵐山改革は進めているところであるが、経営の

観点ではスキー場の収益は非常に大きく、メインであることに変わりはない。

これまでの指定管理者であるめむろ新嵐山(株)の経過として、経営面で、スキーが良い時は黒字、悪いと即赤字で、雪次第で不安定な状況にあった。

このことから、スキー場をメインとしつつも、プラスアルファでグリーンシーズンや冬にもスキー以外でも集客できないかと思い、トライしているところである。

情報発信はおっしゃる通りと思う。もう少し力を入れていきたい。

町長でありながら、指定管理先の社長の立場もある中では、今年度は、マーケティングなど情報発信の専用スタッフも雇い始めており、来シーズンに向けて発信を強化していきたい。

それと新嵐山の関係団体(スキーやパークゴルフなど)や入店している店舗の皆さんなど、民間で既存で関わっていただいている皆さんとも、今一度、共通認識を図って、来シーズンに向けて本格的にさまざまな取り組みを軌道に乗せていきたいと思うことから、そのような情報共有の場を設けていきたい。

【ご意見】

同じく新嵐山について、意見として申し上げたい。スキー場のオープン前に人工降雪機で作ったキッズ用の場所に、孫を連れて伺った。何十年ぶりで行かせてもらった。

「新嵐山」というネーミングのことで、知人に言われたが、休止してしまいましたが、グループの「嵐」だとかと絡めないかといわれた。そんなようにネーミングを使いながらの展開はいかがか。

それと、展望台はやはりすばらしい。スキー場が冬のメインであることはわかるが、少子化で子どもが減っている中で、親が連れて行かないと成り立たないので、スキーやスキー以外でも親が子どもを連れていきたいように仕向けることをどんどんしていかないとけないのではないか。

時代の流れもあるが、一層取り組んでほしい。新嵐

山は立地条件もすばらしいし、帯広からも近い、夏も冬も来てもらえるように盛り上げてほしい。

子育て世代に数多く来てもらえるような頑張りを期待したい。

【手島町長】

「嵐」を使ってというのはご意見として参考にさせていただく。

新嵐山は、もともとは京都の嵐山に美生川付近の形状が似ていたことからついたものだと地元の名士の方にも聞いたことがあり、そのようなストーリーも活用しながら発信したい。

展望台については、活用計画の中では「スカイフィールド」として位置付けており、生かしていかないといけないと考えている。

展望台周辺では、西側の木が大きくなってきて景観が悪くなかったり、トイレが汚いといった課題が直近であったことから、展望台近くの木を伐採したり、トイレを一時的ではあるが、昨年度からプレハブのきれいなものに変えるなど、できるところから対応している。

課題として展望台自体が古い、水回りがないなどあるが、展望台を改修してデッキにしたり、キッチンカーに来てもらうなど、今後の事業の中で実施したいと考えている。

それから、林道の整備については、拡幅は難しいと思うが、少しでも危険を減らすにはどうしたらよいかなど、芽室遺産でもある展望台からの景観を活用していきたいと思っており、ご期待いただきたい。

私が、新嵐山改革を進めなければと考えたきっかけとして、おじいちゃんが孫を連れていくときに、「パークゴルフはできたが、せいぜいお昼を食べて帰ってきてしまった。一日過ごせなかった」という話を聞いた。

その話を聞いたときに、ターゲットをファミリーや3世代にするという考えが起きた。

そこで、キッズコーナーのことや旬に合わせたアクティビティを充実させるなどの取り組みをしていきたいという考えである。

町民の憩いという観点も引き続き持っている。町

民という部分が、これまで利用されていた皆さんだけではなく、行ったことない人にとっても、魅力的で、人に自慢したいといえるような場所になるよう、着々とやっていきたい。

議会でもご指摘いただいているが、お金があるのかというのがあるが、みなさまの税金を使うので、無い袖は振れないが、我慢するところはしながら、投資するところはしながら、バランスをとりながらやっていきたい。

【ご意見】

公共施設の再配置構想をみたが、中心市街地はシャッター街と言われるような感じでさみしい感じになってしまっている。どうにかできないか？

【手島町長】

2年前に町長になった公約の2つが病院、新嵐山の改革であったが、就任以降、中心市街地の疲弊のスピードが速い実感があり、3つ目の大きな課題として認識している。

新嵐山改革の中で、新嵐山だけが稼ぐというようなことではなくて、ルート化して市街地にいかに人を誘い込んでいくかや、町外との連携などを考えており、中心市街地になんとか人の流れを持って行けないかと考えている。

単にお店を誘致してシャッターを減らすのではなく、憩いの場を作って、新嵐山で遊んだ後に寄れるような仕掛けをし、買い物していただくといったような相乗効果を作っていきたい。

パチンコ店の跡地の利活用なども、町の持ち物ではないので、勝手に進めることはできないが、活用の計画などについても商工協同組合さん(以下、商組)らと議論している。商組、商工会や商店会と議論を本格的にしたい。私有物件であり、勝手にとならないが、町としても構想の案を作るなどして、協議していきたい。

具体的にお話しすると、本通から6丁目まで全部開発は難しい。そうすると、ピンポイントでやらなければならない。2線通りと本通など街区を考えなが

らやっていくのが必要であると考えている。ただ、地権者、所有者の皆さんがいらっしゃる以上、コミュニケーションを図りながらやっていきたい。

商店街も、都市計画の考え方も持たなければならぬので、お店がただ増えればよいというものではないので、憩いの場の提供、買い物だけではなく、子どもを遊ばせられるところ、ゆったりできる場所などさまざまな観点が必要。そういった要素も並行して考えながら進めて、結果的に中心市街地の活性化に結び付けたいイメージである。

【ご意見】

機構改革のことで、「魅力創造課」について、内容をもう少し、思いも含めて教えてほしい。魅力創造係が町内会を担当するという話であったが対象がそこだけなのか、魅力発信係が観光物産係のようなイメージということであったが、もう少し詳しく知りたい。

【手島町長】

覚悟というか、政策の方向性を総合計画を含め、打ち出している中で、それを実現するための機構改革であるというのが一番の思い。

「新設」として協働、郷土愛を育むために、町内会の部分を説明した。町内会だけではなく、魅力や郷土愛を町民の皆さまにも持っていただくために、「昔帰り」、「向こう3軒両隣」の精神でのお付き合いが必要と思っている。その中では町内会は非常に大きい組織である。こうしたことから、町内会については、魅力創造係で担当するという考えである。

もう一つは、コミュニティスクールなど、地域の人にもめむろを愛する気持ちを持ってもらいたい。そうした観点での教育委員会と町との調整については、魅力創造係で担当すると考えている。

もう一つ大きいのは、人口減少の中で、移住定住も大事だが、何百人も急に移住してくることはない。今後のまちづくりには、「交流人口」や「関係人口」(企業や団体も含む)もの、こうしたものを増やしていけないといけないと強く感じている。

ですから、町民の皆さん以外にも(外からの)応援団を増やすという考えである。個人版ふるさと納税、企業版ふるさと納税、テーマに応じたクラウドファンディングなど「稼ぐ」要素も、この課の中で魅力発信係が中心になってやっていこうと考えている。

政策推進課が全体で、魅力創造課がその中で絞って事業実現していくところというイメージで、今後、広報誌すまいるの3月号でも詳しく説明していきたい。ご意見あればぜひ伺いたいと思っている。

【ご意見】

結構大変な部分もあるのではないかなと思う。専門的なアドバイザーも必要ではないか？専門性の高い人の関与も必要である。そこは考えてもらいたい。

別の質問で、町民芸術文化鑑賞検討委員会に数年、関わっている。R2はコロナ禍で開催できなかったが、今後の見通しはどう考えているか？

また、町長がおっしゃる「一流を見て聴いて学ぶ」という思いがあると思うが、今の状況の中で、どうしていきたいと考えているのか？

【手島町長】

機構改革の魅力創造課の仕事は、たしかに職員だけでは難しい点や専門性がある。具体的に会社名は言えないが、かなり大手の有名なところとネットワークが構築できてきており、アドバイザーに就任していただいているなど、関係人口創出に向けて少しずつやっていっているのが現状。そうしたところの力も借りながら引き続きやっていく。

また、企業と町のマッチングをしてもらえる方々のコーディネーターもいらっしゃる、力も借りている状態。

そうした専門性のある分野においては、民間の力も借りながら進めているという観点で進めていっているのが現状であります。

【程野教育長】

町民の皆さんの芸術・文化鑑賞等であるが、各種

事業、芸術分野、中止になったり縮小と苦慮している。

いずれにしても、感染予防が最も大切で、クラスターが発生しては元も子もないので、まずはそこを一番に考えているところ。主催者、参加者、関係者、みんな歯がゆいところもあるが、そこは共通理解として持っていてほしいと思っている。

そのような中で、「どうやったらできるだろうか」という観点で進めているところである。状況が好転すればやっていきたいと考えている。札幌(札幌交響楽団)のところでは、最後まで粘ってやれるかどうか検討していたが残念であった。状況が好転した際には、関係者の皆様にもぜひお力をいただき、開催に向けて検討していきたい。

【手島町長】

「一流を見て聴いて学ぶ」ということで、予定していた札幌のところは、次年度も再トライしたいと考えている。感染予防をしながら、どうやるかということは忘れずに検討していきたい。

以上

20:00 終了

【会場写真】

